



デルタ株のまんえんが一段落、感染の拡大が落ち着いて少々安心をしていましたら、オミクロン株の話題になりました。今年、ワクチン接種をしましたので、3回目の接種は直近で22年の春になりそうですが、心配と不安が継続します。

これからも3密回避生活、アルコール消毒、マスクの暮らしが続くわけですから気持ちが滅入ります。報道で「アベノマスク」の在庫には驚きまし

た。在庫が8000万枚、うち1100万枚、15%が不良品 保管費用に6億円 検品費用に21億円とか。不織布ではなくガーゼ 小さいので眼帯かと思ったという揶揄も。総額400億円でした。国会では、ひと月万枚の処理で計算すると33年かかるとかの質問。ネットでは「安倍に買わせろ」の意見も噴出しています。

年末の気ぜわしいなか「退協だより」をお届けします。2021年も幕をとじますが、今年は何をやり何を残したのかと振り返りますと心のなかに空洞を感じます。今までは言葉を交わし笑顔を見つめ合い時にはビールで乾杯の風景もありました。老いを感じながらも苦労して集まりを開催して少しは学ぶことや署名の取り組みなどもありましたが、今は無為に時が過ぎ去るだけの一年間でした。本当に残念な2年間、悔いの思いに繰り返し襲われます。

総選挙では、いろいろな思いを込めてそれなりに政治参加をしましたが「批判」をすることが、あたかも異端のような世論形成に危うさを感じました。「反対ばかり」という稚拙な考え方は、同調圧力の一端で「反対」の意思表示は民主主義の根幹であり、「反対」そのものが毅然とした「意見」であるということ、大戦をとおして反戦平和を訴えることができなかつた歴史をしっかりと学ぶことをせず終えた証拠とも思えます。

野党は、地方自治体でも国会でも相当数の議会決定に賛成をしている事実を目を背けて、「ばかり」の世論誘導は極めて意識的だと思いました。福島県は、野党共闘でしっかりと議席を獲得しています。模索をしながら野合批判を克服することが肝要ではないかと考えます

選挙の結果は意見が分かります。ただ、私見ですが保守亜流の勢力台頭が大変気になります。改憲への道かと心配です。



日本教職員組合は、10月31日大阪城公園内にある教育塔において第85・86回教育祭を行いました。コロナ禍のため2回合同でそれぞれ4名・6名合葬です。学業なかばにして尊い命を奪った児童・生徒、不慮の災害、病気などにより命を絶たれた教職員・保護者ならびに教育関係者の方々を心から追悼し、その名を長く記憶にとどめ、再びこうした不幸な出来事が起こらないことを願い、毎年、教育祭を執り行っています。今年は新たに4人を合葬し、のべ27、258人となりました。

日教組は「教育祭は、不幸な出来

事から学び、再び災禍が繰り返されないように誓いを新たにし、未来へ向けて歩みを進める場です。子どもたちが主人公である学校、その成長を支援する教職員と保護者、地域社会が連携し、ともに学びともに支え合う教育を創りあげ、安心して生活し学び続けられる生活環境・学習環境を整備していくことが、私たち教育関係者に課せられた使命です。その実現に向け全力でとりくんでいくことをあらためてこの場でお誓い申し上げます」の趣旨で追悼の詞を述べていました。(日教組HPから転載しました)

この教育塔教育祭にあたって、福島県教職員組合からの打診があって、あけぼの会事務局長、酒井 文さんのご尽力で「会田長栄さん一元県教組委員長・参議院議員」「山本和夫さん一元日教組副委員長・退教協石川支部長」の合葬についてご遺族の方々とご相談のうえ承諾をいただきました。10月31日、大阪にて前県教組委員長・角田政志さんにお世話をいただきまして山本和夫さんのご子息である山本典夫さんが教育祭に参列されました。

会田さん、山本さんは、県教組運動、退教協活動そして社会党・社民党の革新運動の中心を担い私たちにとっても、かけがえのない指導者でした。あらためて、その功績に感謝申し上げたいと思います。

特に、退教協の役員会では「叱咤・叱咤・・・激励」でした。退教協活動も高齢化と組織弱体で難儀していますが、こらえてがんばりたいと思います。

激戦地の土砂を投入とは・・・

米軍普天間飛行場（沖縄県宜野湾市）の移設による名護市辺野古の新基地建設で沿岸部への土砂投入が強行継続されています。昨年、従前から指摘されていた「軟弱地盤」の改良工事のために、大量の岩石や土砂が必要となり調達先として本当南部の糸満市と八重瀬町の名前があがりました。大戦の沖縄戦では南部は最大の激戦地と言われており、今もボランティア活動によって遺骨収集が行われています。政府は、公然と遺骨が眠る土砂投入を強行しようとしています。沖縄県議会も保革を超えて土砂使用の反対を決議、全国の自治体でも請願等の採択をしています。軟弱地盤の工事はいつ完成するともわからないこと、そして一説によると1兆円を超える費用とも言われています。

石川町議会は、委員会の審議を経て本会議で次の内容で示す意見書を採択して、関係各大臣等に送付することを議決しました。以下、意見書全文

発議第7号

沖縄戦戦没者の遺骨を含む土砂を辺野古新基地建設の海洋埋め立てに使用しないことを求める意見書

上記の議案を、石川町議会規則（昭和62年議会規則第1号）第14条の規定により提出する。

令和3年12月10日

提出者 石川町議会議員 菊地美知男

提出者 石川町議会議員 渡辺 実

提出者 石川町議会議員 下山田和雄

石川町議会議長 草野伝明 殿

沖縄戦戦没者の遺骨を含む土砂を辺野古新基地建設の海洋埋め立てに使用しないことを求める意見書

沖縄で進められている辺野古新基地建設の海洋埋め立てに、沖縄防衛局は土砂を沖縄本島南部からも採取しようとしています。南部地域は沖縄戦で多くの県民や兵士が戦火の犠牲になり、未だに遺骨も埋もれている地域です。沖縄県議会ははじめ、沖縄県内の多くの市町村で遺骨混入の土砂使用反対の議決がされています。

沖縄戦では、一般住民を巻き込んだ悲惨な地上戦が行われ、多くの尊い命が失われました。沖縄戦での犠牲を強いられた県民や兵士の遺骨が残されており、戦後 76 年が経過した今でも戦没者の遺骨収集が行われています。

摩文仁の「平和の礎」には沖縄戦の犠牲者 241,632 名が刻銘されており、1,014 名の福島県出身の戦没者も刻銘されており、沖縄だけの問題ではありません。

さきの大戦で犠牲になった人々の遺骨が入った土砂を埋め立てに使用することは人道上許されることではありません。

よって、国会及び政府に対し、下記の事項が速やかに実現されることを強く要望します。

記

- 1 悲惨な沖縄戦の戦没者の遺骨が混入した土砂を埋め立てに使用しないこと。
- 2 日本で唯一、住民を巻き込んだ苛烈な地上戦があった沖縄の事情を鑑み、「戦没者の遺骨収集の推進に関する法律」により、日本政府が主体となって戦没者遺骨収集を実施すること。

以上、地方自治法第 99 条の規定により意見書を提出する。

令和 3 年 月 日

提出先

衆議院議長

参議院議長

内閣総理大臣

外務大臣

厚生労働大臣

国土交通大臣

環境大臣

防衛大臣

沖縄北方対策担当大臣

細田博之殿

山東昭子殿

岸田文雄殿

林 芳正殿

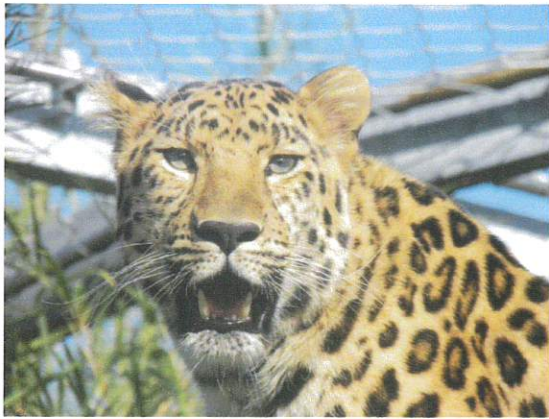
後藤茂之殿

斉藤鉄夫殿

山口 壮殿

岸 信夫殿

西銘恒三郎殿



いろいろと・・・

☆10月8日役員会を開催しました。最大の議題は役員選任でした。人手不足と高齢化が深刻です。結局、お知らせのとおり事務局長が支部長兼務と相成りましたのでよろしくお願いします。

☆10月8日、衆議院選挙の社民党総合選対の結成会議が開催されました。

☆10月11日、ようやく支部退教協議案書を発送しました。活動も冬眠状態で気持ちが落ち込むばかりです。

☆10月20日、東京から会員・山本春美さんの訃報がありました。支部長名で弔電をお送り致しました。あらためてお悔やみ申しあげます。

☆11月2日、朝鮮初中級学校への「支援金」19000円を送金しました。篤志寄付もありました。会員のみなさまのご協力に感謝申しあげます。また来年もよろしくお願い致します。

☆12月16日、衆議院選挙社民党総合選対会議が開催されました。選挙総括でしたが、全国的には立憲への合流等で票の目減りが心配されましたが微増という結果が報告されました。県・支部としては厳しい現実があるということでした。

☆「日退教通信 No399」お届けします。

あとがき



まもなく新年を迎えます。年の瀬の落ち着かないなか退教だよりの発行になりました。先送りが習慣になりいっこうに改善のきざしがありません。森友隠蔽で自死された赤木俊夫さんの裁判でなんと「認諾」という言葉をみて驚きました。こんな「封じ手」があったのかと。これで闇の中でしょうか、官僚の悪知恵には言葉もありません。権力は恐怖です。不正・隠ぺい・ごまかし、そして格差や貧困、平和な社会はどこに。敵基地先制攻撃などという言葉が論議されるとは、戦争がはじまりそうです。

オミクロン株の市中感染がここかしこで始まりました。また、巣ごもりになりそうです。健康にご注意されて、よい年をお迎え下さい。

お世話になりました。明年もよろしくお願い申し上げます。

三輪